

フォートラベル「2013年GWの旅行動向調査」

- ◇ **GWの旅行実施率は、過去最高！暦や天気などの条件も整い国内旅行が好調。**
- ◇ **アベノミクス効果、夏の旅行動向に注目！**
- ◇ **(補足)海のLCC「外国船クルーズ」が、首都圏発着クルーズを開始。**

フォートラベル株式会社(本社:東京都渋谷区 代表取締役社長 井上英樹、以下:フォートラベル)は、運営する「旅行のクチコミサイト フォートラベル(<http://4travel.jp/>)」にて、会員を対象に「2013年GWの旅行動向調査」を実施いたしました。調査結果を以下にご報告いたします。

- 【1】 調査結果概要(基本データのご報告)
- 【2】 調査結果解説/執筆:弊社アドバイザー、旅行ジャーナリスト 村田和子
 1. GWの旅行実施率は、過去最高！暦や天気などの条件も整い国内旅行が好調。
 2. アベノミクス効果、夏の旅行動向に注目。
 3. (補足)海のLCC「外国船クルーズ」が、首都圏発着クルーズを開始。
- 【3】 調査実施概要(回答者プロフィール等)
- 【4】 フォートラベル株式会社について
- 【5】 データ利用について

【1】 調査結果概要(基本データのご報告)

➤ 【GWの休暇取得状況概要】

GWの連続休暇日数は、平均5.5日で、昨年より0.2日減少した。休暇日数の分布をみると「4日間」と回答した人が圧倒的に多く48.6%、続いて「10日間」(13.4%)、「5日間」(10.2%)となり2極化の傾向であった(グラフ1参照)。今年は4月27日(土)からの3日間、5月3日(日・祝)からの4日間が暦の上の休暇となっており、暦通りの休暇だった人が多かったと推測される。2位の「10日間」と回答した人は、間の平日3日間が休暇だったと考えられる。

➤ 【GWの過ごし方概要】

GWは「自宅中心で過ごした」と回答した人がもっとも多く29.0%、続いて「国内旅行」(25.4%)、「海外旅行」(17.5%)、「日帰り旅行」(13.9%)、「帰省」(7.1%)の順となった。昨年同時期の調査と比較すると「自宅中心で過ごした」人が8.1ポイント減少し、「国内旅行」が5.7ポイント増、「海外旅行」、「帰省」は微増という結果となった。「日帰り旅行」は3.3ポイント増加。今年のGWは晴天に恵まれた地域が多かったため、急遽外出をした人も多かったと推測する。昨年よりもさらに旅行する人が増え、とりわけ国内旅行者の増加が顕著に表れる結果となった(表1参照)

➤ 【海外旅行概要】

「海外旅行」日数の平均は7.0日で、昨年同時期の調査結果と比較して0.9日増加。旅行費用は20.9万円と昨年(17.8万円)より3.1万円増加した。旅行日数の分布をみると、今年は分散する傾向に。中でも、8日以上長期旅行をする人が39.9%と、昨年(26.8%)より13.1ポイント多い。出発日は「4月27日(土)」が18.3%で最も多く、帰着日のピークは「5月6日(月・祝)」(20.6%)だった(グラフ2参照)。

海外旅行先は「アジア」がもっとも人気で53.1%、続いて「ヨーロッパ」(23.9%)、「北米」(12.3%)となった。「アジア」は人気が高いものの、昨年と比較すると6.8ポイント減。「ヨーロッパ」は5.1ポイント増、「北米」が1.6ポイント増となった。行き先を国別にみると「台湾」、「タイ」がもっとも人気で、続いて「韓国」、「アメリカ」の順となった。外交問題等の影響か、昨年もっとも人気の高かった「韓国」は順位を落とし、同じく人気の高かった「中国」はランク外という結果に。なお、海外旅行の同行者は「ひとり旅」がもっとも多く37.5%と、昨年(33.8%)より3.7ポイント増加。同行者との調整等の問題で「ひとり旅」を選択、思い切って遠出をした人も多そう。また、手配方法は「個人手配」(73.8%)がもっとも多く、昨年(69.7%)より4.1ポイント増加。自分のペースで自由に旅を楽しむ人が増えていることが伺えた。

➤ 【国内旅行概要】

「国内旅行」日数の平均は3.1日で、昨年(3.2日)と比較し微減。旅行費用も平均4.7万円と、昨年(4.9万円)と傾向はほぼ同じといえる。出発日は「5月3日(金・祝)」が最も多く23.2%、帰着日は「5月6日(月・祝)」が多く18.2%となった。人気の旅行先は「東京都」、「北海道」、「沖縄県」。「東京都」へ訪れた人は、先日開業1周年となった東京スカイツリーを中心に、都内の観光を楽しんだ人が散見された。2位の北海道は昨年に引き続き人気が高く、訪れた人のコメントをみると、温泉でゆっくりと休暇を過ごしたというコメントが多い。昨年より順位をあげた3位の「沖縄県」は、新石垣空港の開港やLCC就航なども関係していると考えられる。ダイビングをしたりビーチリゾートでくつろいだりするなど、一足早く夏を楽しんだ様子が伺える。

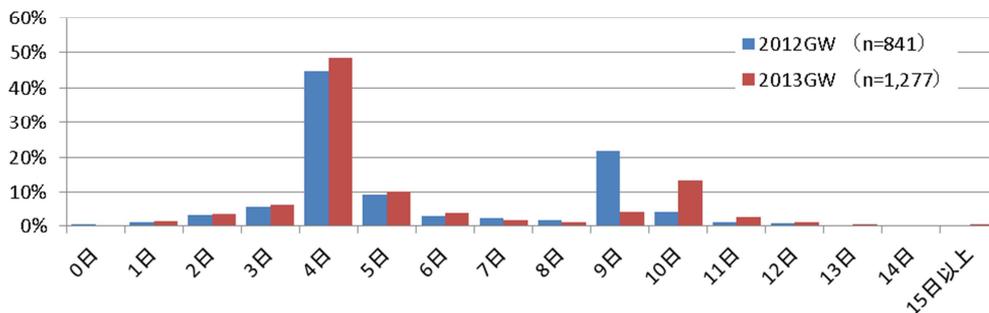
「国内旅行」、「帰省」の交通手段は「新幹線(17.9%)」が昨年(12.6%)より5.3ポイント増、「飛行機(26.6%)」が昨年(22.4%)より4.2ポイント増加。「飛行機」は、LCC国内路線が就航して初めてのGWを迎え、より気軽に利用した人も多そうだ。旅の同行者は「夫婦」がもっとも多く29.8%(昨年:30.8%)。次に多かったのは「家族:一世帯もしくは二世帯(29.1%)」で、昨年(27.4%)より1.7ポイント増加傾向となった。ひとり旅の傾向が強かった海外旅行に対し、国内旅行は“家族で”という傾向が顕著だった。

(表1) 旅行動向と休暇の概要

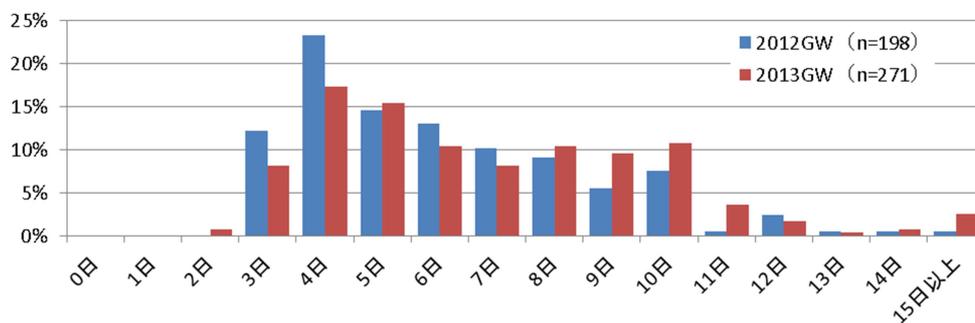
		2013GW(昨年対比)	2012GW
連続休暇日数の平均	全体	5.5日(▼0.2)	5.7日
	海外旅行	7.7日(+0.1)	7.6日
	国内旅行	5.5(▼0.4)	5.9日
	帰省	5.4日(▼0.2)	5.6日
	日帰り	4.6日(▼0.3)	4.9日
	自宅中心	4.2日(▼0.6)	4.8日
過ごし方	海外旅行	17.5%(+0.8)	16.7%
	国内旅行	25.4%(+5.7)	19.7%
	帰省	7.1%(+0.2)	6.9%
	日帰り	13.9%(+3.3)	10.6%
	自宅中心	29.0%(▼8.1)	37.1%
	その他	7.1%(▼1.9)	9.0%
旅行費用の平均	海外旅行	20.9万円(+3.1)	17.8万円
	(1日当たり旅行費用)	3.0万円(+0.1)	2.9万円
	国内旅行	4.7万円(▼0.2)	4.9万円
	(1日当たり旅行費用)	1.5万円(±0)	1.5万円
旅行日数の平均	海外旅行	7.0日(+0.9)	6.1日
	国内旅行	3.1日(▼0.1)	3.2日

(グラフ1)GWの連続休暇日数

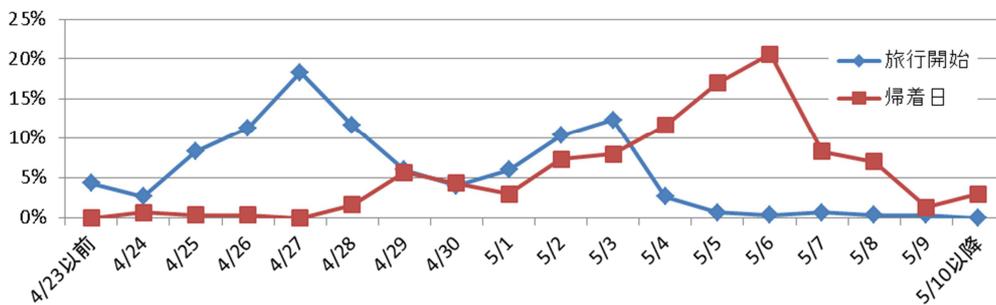
※決まった休みがない人を除く



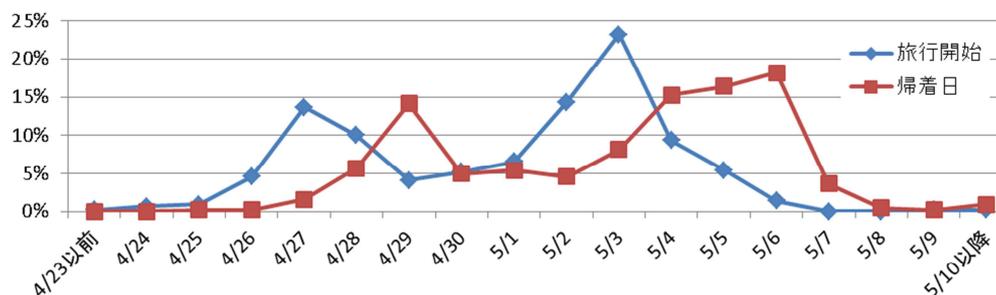
(グラフ2)海外旅行日数の分布



(グラフ3)海外旅行の出発日・帰着日



(グラフ4)国内旅行の出発日・帰着日



(表2)海外人気旅行先

	2013GW	% (2012GW対比)
1位	アジア	53.1 (▼6.8)
2位	ヨーロッパ	23.9 (+5.1)
3位	北米	12.3 (+1.6)

(表3)国内人気旅行先

2013GW		2012GW	
1位	東京都	1位	東京都
2位	北海道	2位	北海道 長野県
3位	沖縄県	4位	静岡県
4位	神奈川県 長野県	5位	沖縄県 栃木県 千葉県

【2】 調査結果解説

執筆:弊社アドバイザー 旅行ジャーナリスト 村田和子

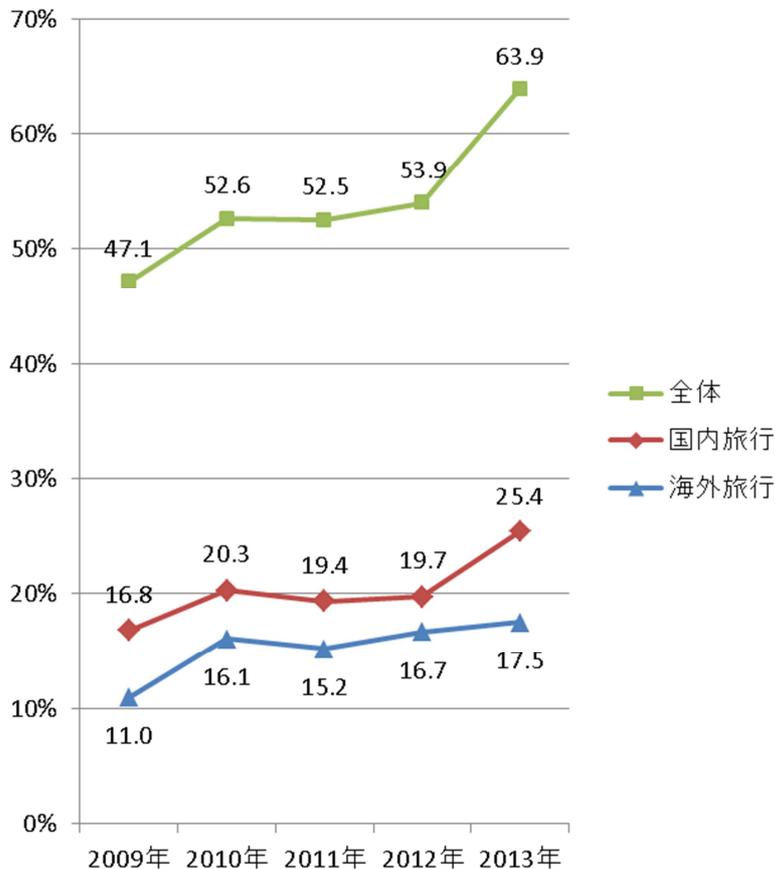
◆GWの旅行実施率は、過去最高！ 暦や天気などの条件も整い国内旅行が好調。

2009年の調査実施以来、GWの旅行実施率(※)、海外旅行実施率、国内旅行実施率が、いずれも過去最高となった。「株価も上昇し、景気回復に期待する消費意欲の表れ」という理由もあるが、それだけではなさそうだ。(※:海外・国内・帰省・日帰りの合計)

今回最も増加したのが、「国内旅行」「日帰り旅行」だ。平日を3日間はさんで、連続休暇が3日、4日という暦の為、カレンダー通りの休暇では、海外旅行の行先が限られる。加えて、短い行程で訪れることができる、近場の韓国、中国は、領土問題、北朝鮮の問題、PM2.5などが影響し、避けられる傾向にあった。そんな中、関西国際空港では昨年3月に、成田空港では昨年夏に、日系LCCが国内線の運航を開始。今年に入ってからも就航先を増やしつつある。今まで繁忙期は、価格が高く手が出なかった国内の飛行機の旅が、手頃になったことも、少なからず影響していると考ええる。

一方、東京では、東京スカイツリー、東京駅丸の内駅舎などの新スポットが昨年登場し、商業施設も相次ぎオープン。また東京ディズニーリゾートは30周年を迎えるなど、話題に事欠かない。今年3月には、東急東横線と副都心線が相互乗り入れを開始し、東武東上線、西武有楽町線・池袋線など、5つの路線が乗り入れした。アクセスの利便性向上に加え、ニュースにも多く取り上げられたことから、首都圏在住者の「日帰り旅行」に影響したと考える。またGW直前には、大阪のグランフロント大阪もオープンするなど、都市型の観光スポットが元気だ。昨今は、国内旅行の計画が間際化しており、連休中、特に後半4連休の天候がよかったことも幸いし、「国内旅行」「日帰り旅行」の大幅増につながったと考える。

GWの旅行実施率(%)



◆アベノミクス効果、夏の旅行動向に注目。

旅行計画は気持ち的な要因に左右されることもあり、景気の見通しが明るいという点は、旅行者にプラスの影響があったと考える。ただ円安シフトなど具体的な事象の影響については、上記にあげた暦や旅行先情勢による点も大きく、GWIについては限定的だったと思われる。また旅行予算についても、海外旅行で増加しているが、一日辺りに換算すると、国内外とも大きな変化は見られなかった。

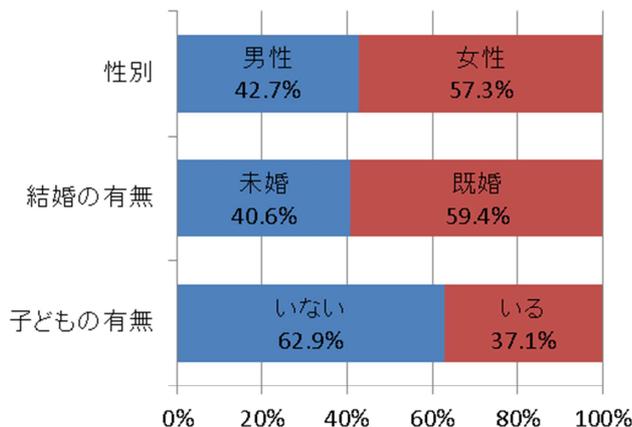
現状、円安の影響が顕著なのは訪日旅行であり、国内の旅行者への影響は、夏から本格化すると考える。旅行商品などへ為替変動が反映されること、また夏期休暇は比較的自由に取得する傾向にあり、GWや年末年始と違い暦や休暇日数などの制約が少ない。その為、夏休みの旅行動向調査の結果は、例年、旅行者の欲求やニーズを色濃く反映したものになっており、どのような結果となるか注目したい。

◆(補足)海のLCC「外国船クルーズ」が、首都圏発着クルーズを開始。

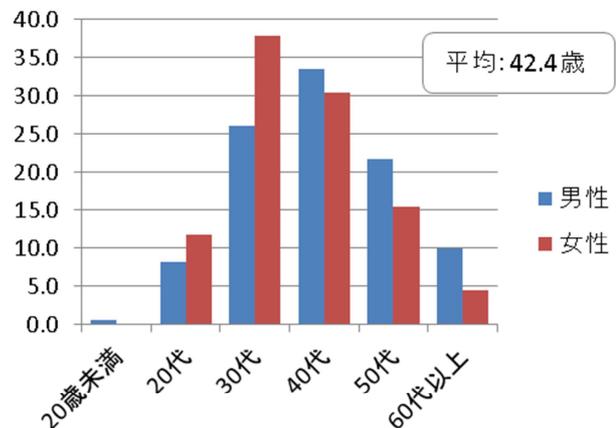
GWの新しい旅のスタイルとしては、今までのクルーズのイメージを覆す「外国船クルーズ」の参入だろう。アジア最大の13万トンのクルーズ船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」をはじめ、外国船3隻が、横浜や東京発着クルーズを実施した。オールインクルーシブで、1泊1万円代~の外国船クルーズはサプライズも多くリピーターも期待できる。既に、来春から夏にかけて、プリンセスクルーズが10万人規模での運航を発表しており、GWの海外旅行の新スタイルとして、今後注目を集めることが予想される。

【3】 調査実施概要(回答者プロフィール等) (n=1,765)

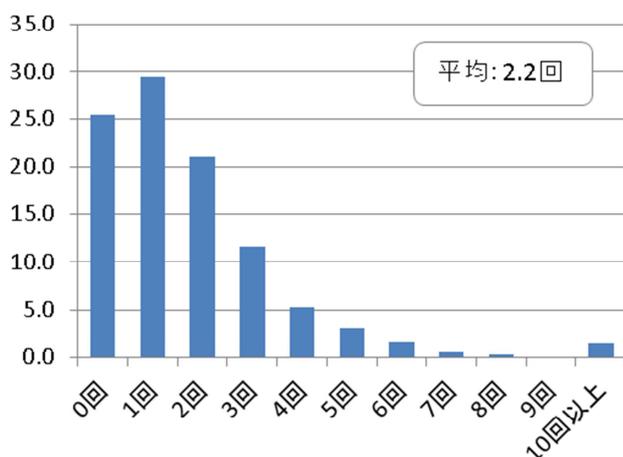
回答者プロフィール



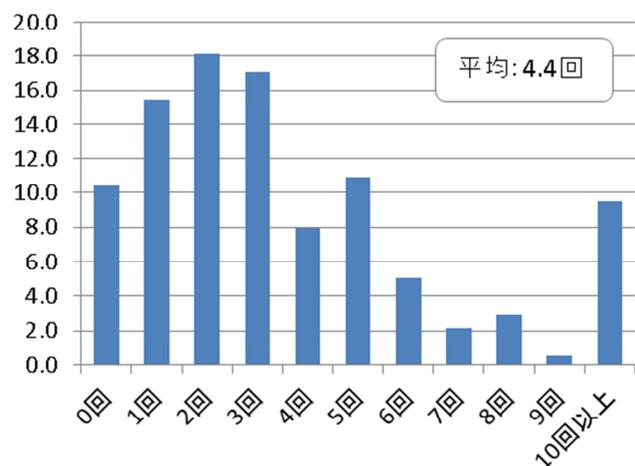
年齢



最近1年間の海外旅行回数



最近1年間の国内旅行回数



<調査目的>

旅行好きのフォートラベルユーザーが2013年のGWの休暇をどう過ごしたか、旅行消費・動向にどういった影響があるのか、実態を把握する。

<調査期間>

2013年5月2日 - 2013年5月13日の12日間

<調査対象>

フォートラベル会員(有効回答数:1,765件)

【4】 フォートラベル株式会社について

事業内容:旅行総合情報サイト「旅行のクチコミサイト フォートラベル」の企画・運営

所在地:東京都渋谷区恵比寿南3-5-7 恵比寿アイマークゲート6F

代表取締役社長:井上 英樹

投稿数:【クチコミ】624,833件【旅行記】653,467件(2013年5月28日現在)

アクセス数:ページビュー数39,576,634PV/月 サイト利用者数5,462,316人/月(2013年4月30日現在)

2004年1月にサイトを開設。来年1月で10周年を迎える旅行クチコミサイト。登録ユーザーが旅先での経験をクチコミとして投稿できるサービス、旅行写真をブログ形式で投稿できる旅行記作成サービス、ツアー・ホテル・航空券などの旅行商品を一括で比較・検索できるサービスなどを提供。

【5】 データ利用について

1.掲載に際しては「旅行のクチコミサイト フォートラベル(<http://4travel.jp/>)調べ」と必ず明記をしてください。

2.掲載前に必要事項をご記載の上、弊社にご連絡をお願いいたします。なお、ご連絡頂く際は、以下について明記をお願いいたします。

必要事項:会社名、担当者名、連絡先(メールアドレス、電話番号)、使用用途、発売日/掲載日

3.本レポートは情報提供を目的としています。掲載したデータ及び当該データを加工したグラフ等の正確性・確実性については、その内容を完全に保証するものではありません。また、本調査結果の利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任は負いません。

4.本レポートのご利用にあたっては、以下の事項を禁止いたします。

- ・本レポートを改竄して使用すること。
- ・本レポートを第三者に対し有償で提供すること。
- ・本レポートの複写・複製・転記載・抄録要約、磁気媒体・光ディスクへの入力等をフォートラベル株式会社の許諾なく行うこと。

【本件に関する報道機関からのお問い合わせ先】

フォートラベル株式会社 広報担当: 谷津

mail: press@4travel.jp